

およソタル しももの

なり かみノト

ズル

しかルのちげんリ

凡為_レ下者、為_二上_一所_レ信、然後言有_レ所_レ取。

一般的に、（立場が）下の者は、上の者に信頼されて初めて、進言が取り入れられる。

タル かみ

なり しもノト

ズル

ル

れいリ

ル

為_レ上者、為_二下_一所_レ信、然後令有_レ所_レ下。

上の者は、下の者に信頼されて初めて、命令が受け入れられる。

セ ヤカニセント

スレバ

ヤカニセント

チル

ハレなり

事不_レ欲_レ速。欲_レ速。則不_レ行也。

物事は、急速に成し遂げようと思わない（のが良い）。急速に実現しようとするのと、実行されないのだ。

b ようぐのしゅハズシコノヒ

庸愚之主 必無_二斯憂_一。

凡庸で暗愚な君主については、絶対にこのような（急速に政策を行おうとする）心配はない。

ダ たのム ノニものノミ

唯聰明之主 恃_二其材_一者、

イハル

いったんヒ

ヨ

ルニ

ラ

かへりミル

或至_二一旦_一行_レ之、不_レ有_レ所_レ顧。

ただ（中途半端に）聡明な君主で自分の才能をあてにする者についてだけ、たいがい、ひとまず実行し、（その後）検証しないという状態に陥る。

夫知レ善而欲ニ速成一者、小人之事也。
（の仕方）である。

君子則不レ然。一言一行、其所レ及大遠。

君主はそうではない。言動一つ一つにも、（その背景には）遠い将来への見通しがある。

与ニ三其見ニ効於一時一、寧取ニ成於子孫一。

政策の効果は即時に表れるよりも、子孫の代に成果が出る方がよい。

是謂レ知ニ大体一也。

これで、政治の大要を知る（君主の考え）というものだ。

下民之愚、承レ弊之日久、則安ニ於其弊一、

以為レ無レ便ニ於此一。

愚かな下々の民は、弊害を被る日が長く続けば、その弊害に甘んじて、それによつて、この現状より都合が良いことはないと思ひ込む。

加之狡猾者心知ニ其弊一、而口不レ言、

因以自恣レ之。

それだけでなく、ずる賢いものは、内心ではその弊害を理解しているけれども

（敢えて）口に出さず、それによつて、自分でこの（弊害がある）状況を利用する。

今^e欲^{ほつスレバ}レ矯^{たメント}ニ其弊^{ノヘイヨ}一、則愚者狎^チニ其所^{ハナレテ}レ習^{ノニ}、
而不^{ガヘンゼ}レ肯^ヨレ之。

今、仮に（拙速に決断してしまう聡明な君主が）その（Ⅱ現状の）弊害を正そうとすると、愚かな者はその慣習に馴れて、これ（Ⅱ変革）を承諾しない。

狡者^{こうしゃ}乃^{ハすなはチ}乘^{ジテ}ニ其機^{ノニ}一、啗^{くらハスニ}レ之以^{ニテス}レ不利^{ルヲ}。

狡猾な者は、なんと、その機会を利用して、君主に、（その政策は）利益が無いと
いう考えに誘導する。

於^{イテ}レ是^{コトニ}乎擾乱^{ぜうらん}不^ラレ成^ラ矣。

こうして、騒乱が起こって、（その政策は）成功しない。

大抵^{たいてい}維^シニ持^シ数^{のちう}百世^ク之後^ヲ一、置^クニ国家^ヲ於^{たいざん}泰山^{キニ}之^{もの}安^ハ一者^ハ、

如^シレ無^{キガ}ニ近^シ効^ク一。

だいたい、数百代の後まで（体制）を維持し、国家を安泰させるもの（Ⅱ政策）は、
即時的な効果は無いように見える。

以^フニ其^ヲ無^クニ近^ク効^ク一、行^フニ之^ヲ於^ダ未^ゼレ信^ニ之^ニ民^ニ一、

所^{ゆゑ}ニ以^んレ不^ルレ服^セ也^{なり}。

即時に効果が表れない政策を、まだ（君主のことを）信頼していない民に命じる
のが（民が）服従しない理由である。